アート誕生以前のアート
―前近代のアートの現場―

京都大学文学研究科
平川佳世

本日の「対話/Dialogue」の目的

- 私たちの「芸術観」・「芸術家観」を、美術史学の立場から、相対化
- 新しい時代に相応しいアートとビジネスのあり方のヒント

- 今＝「新しい時代への転換期」←歴史研究者としての実感
- 「歴史を学ぶこと」の有用性：私たちには捉えにくい「今、この時代」を相対化、よりよい社会を築く知恵

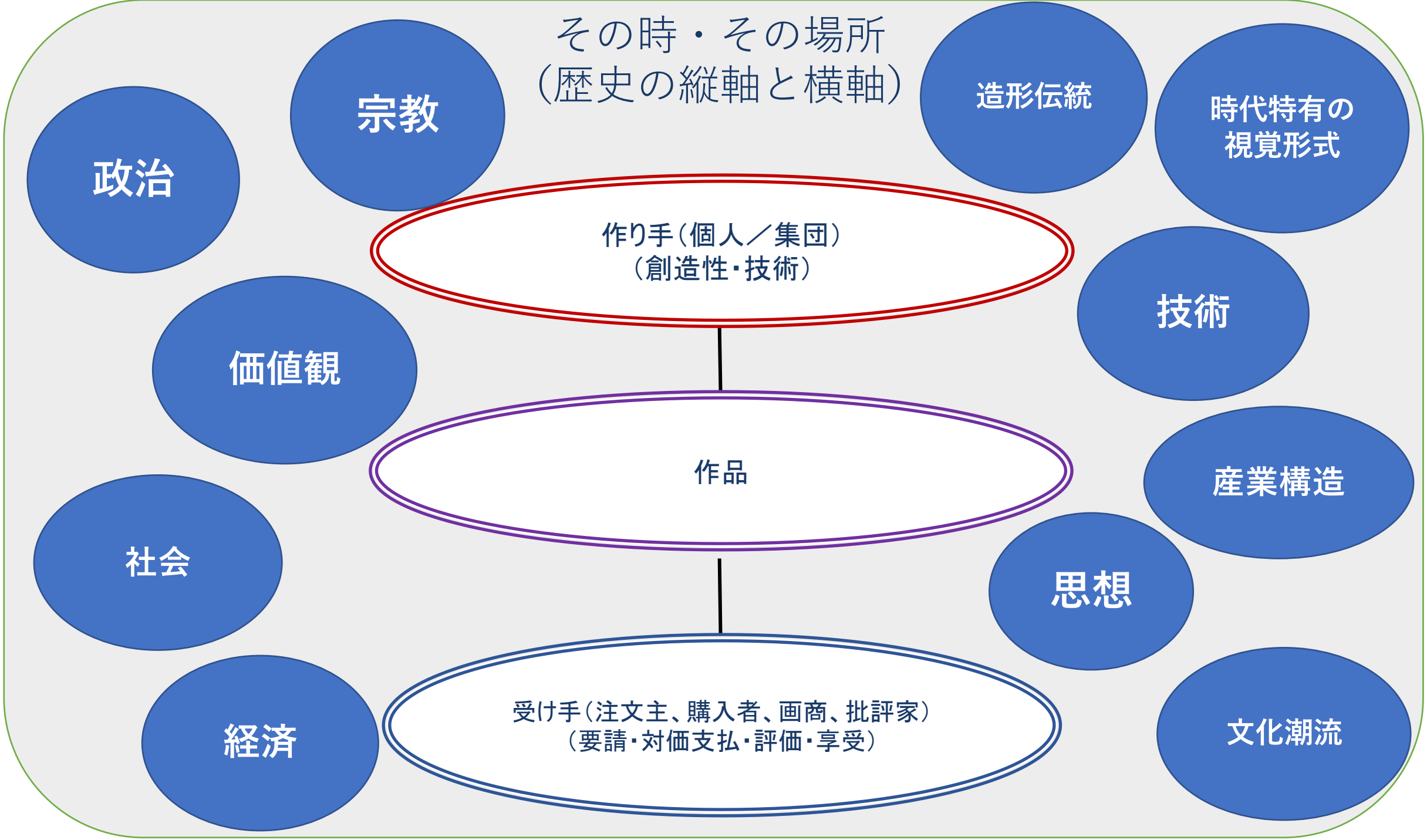
- 私からの話題提供（1時間20分程度）→皆さんからのご意見コーナー

美術史学とは？

- 造形作品生成のメカニズムを、当時の歴史的文脈に立ち戻って、解き明かす学問

- 様式（時代、地域、個人特有の形の特性）
- 図像（表された内容）
- 物質的な状態、来歴
- 制作者、注文主、受容層
- 作品制作をめぐる環境（政治、経済、思想、宗教、社会制度、等々）

- 専門分野：言語圏と時代（例）15世紀～17世紀の北方ヨーロッパ美術および南北交流史


その時・その場所
（歴史の縦軸と横軸）
政治
宗教
造形伝統
時代特有の
視覚形式
作り手（個人／集団）
（創造性・技術）
技術
価値観
作品
産業構造
社会
思想
経済
受け手（注文主、購入者、画商、批評家）
（要請・対価支払・評価・享受）
文化潮流

本日の「対話/Dialogue」の目的

- 私たちの「芸術観」・「芸術家観」を、美術史学の立場から、相対化
- 新しい時代に相応しいアートとビジネスのあり方のヒント

- 今＝「新しい時代への転換期」←歴史研究者としての実感
- 「歴史を学ぶこと」の有用性：私たちには捉えにくい「今、この時代」を相対化、よりよい社会を築く知恵

- 私からの話題提供（1時間20分程度）→皆さんからのご意見コーナー

私たちの「芸術」観・「芸術家」像

- 「芸術（アート）」
  - 絶対的価値である「美」を具現
  - ひたすら見つめ、感じるもの
  - 社会からの距離感、非日常からの解放、崇敬

- 「芸術家（アーティスト）」
  - 美を生み出す天才、類まれな個性
  - 孤高の存在（一般社会から距離）／アウトサイダー（社会的秩序外の存在）／時代の先駆者（生前は評価されず、死後に評価）

美術史学からの相対化

□現代の芸術観・芸術家像：近代特有の考え方

■ 19世紀のロマン主義（天才概念の確立）

■ 19世紀後半以降の前衛芸術の流れ

- 現実世界の再現性を尊ぶ伝統的絵画から脱却（VS写真）
- 絵画独自の造形表現の追求

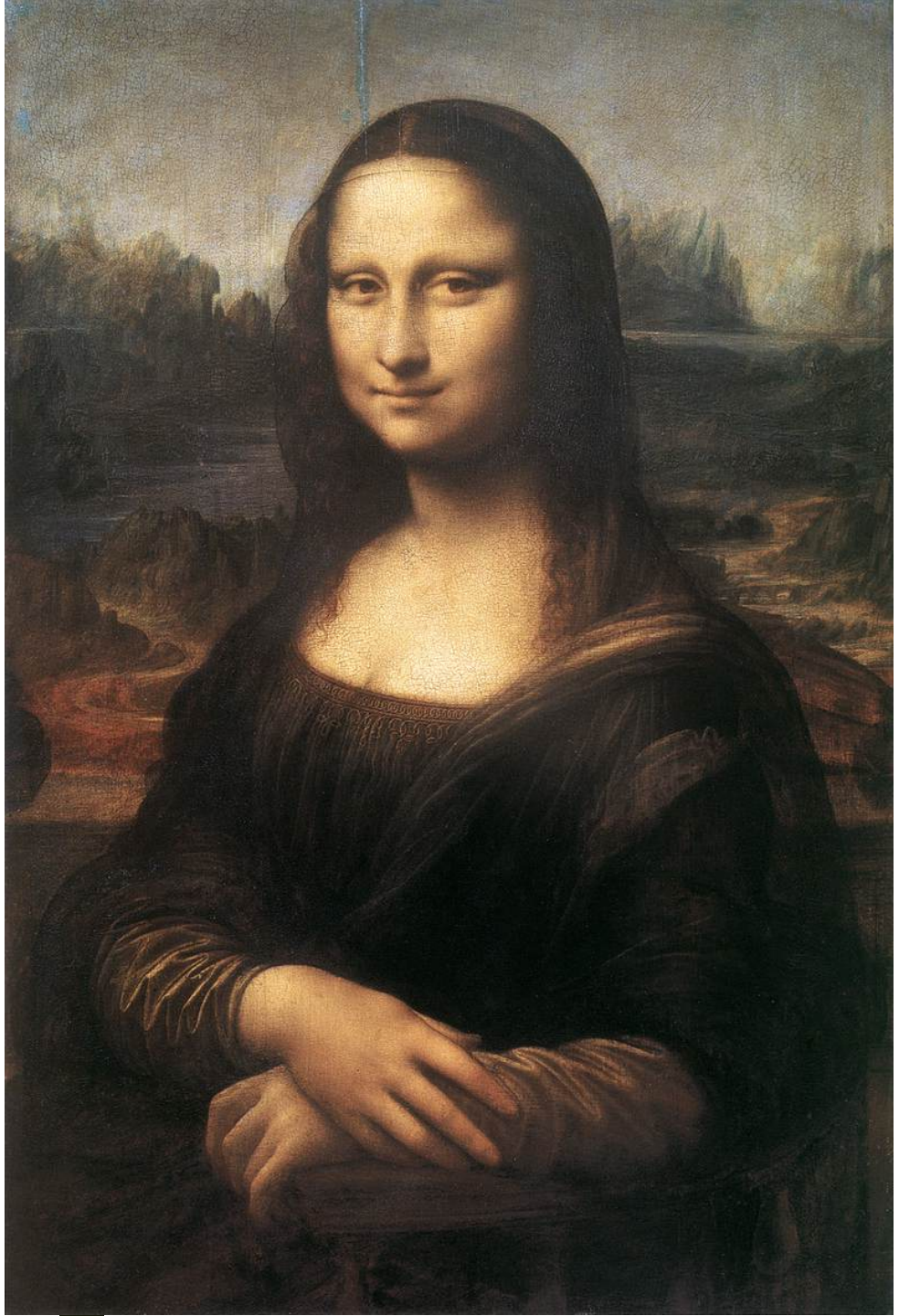
□新しい「アート」のあり方を考えるヒント

■ 「アート誕生以前のアート・前近代のアートの現場」

＝近代的「芸術概念」「芸術家」誕生の過程を振り返る！

15～16世紀のヨーロッパ
―「美術の黄金期」「巨匠たち」の時代

- 革新の時代：中世美術からの脱却、近世（近代初期）の始まり
- イタリア・ルネサンス美術／初期ネーデルラント美術／北方ルネサンス美術
- 古代ギリシア・ローマ文化の再評価、現実世界（人間・自然etc.）への関心、科学的思考の萌芽、宗教観の変容、近現代文明の基盤形成 etc.→新しい美術の誕生
- 様々な「天才画家たち」の活躍：レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ファン・エイク、デューラー・・・



- レオナルド・ダ・ヴィンチ（1452年アンキアーノ～1519年アンボワーズ）
- ◆《モナ・リザ》1503年頃、油彩、板77×53㎝、パリ、ルーヴル美術館

●ミケランジェロ（1475年カプレーゼ？～1564年ローマ）

◆《アダムの創造》1512年頃、フレスコ、ヴァティカン宮殿、システィーナ礼拝堂

- デューラー（1471年～1528年ニュルンベルク）
- ◆ 《メランコリア》1514年、エングレーヴィング、紙24×18㎝

- ファン・エイク（1395年頃マースエイク～1441年ブリュージュ）

◆ 《ロランの聖母》1435年、油彩、板 66×62㎝、パリ、ルーヴル美術館

15～16世紀のヨーロッパ
―「美術の黄金期」「巨匠たち」の時代

- 革新の時代：中世美術からの脱却、近世（近代初期）の始まり

- 私たちが新しい「アート」のあり方を考えるヒントを与えてくれる時代
- 15～16世紀：近代的「芸術」概念・「芸術家」という「社会的身分」の形成期
- ルネサンスの巨匠たち：「アート」概念形成過程のアートの現場を生きる「作り手」たち

中世までの「アート」

- アート（art/ars）：技、術（何かを行うためのやり方）
- 人間の営み：２種類の「技／アート」に分類

1. 自由技術／自由学芸（artes liberales/liberal arts）

- 自由で高貴なる人間に相応しい、知的活動に裏付けられた技
- 文法、修辞学、論理学、算術、幾何学、天文学、音楽

2. 機械技術（artes mechanicae/mechanical arts)

- 必ずしも知的活動を必要としない、手の訓練により行使可能な技術

中世までの「アート」基準に照らすと・・・

- 詩人、音楽家：自由学芸を行使する「高貴なる人」
- 画家、彫刻家、建築家…：機械技術に従事する「職人」

1. 自由技術／自由学芸（artes liberales/liberal arts）

- 自由で高貴なる人間に相応しい、知的活動に裏付けられた技
- 文法、修辞学、論理学、算術、幾何学、天文学、音楽

2. 機械技術（artes mechanicae/mechanical arts)

- 必ずしも知的活動を必要としない、手の訓練により行使可能な技術

画家の制作環境

- 都市の「同業者組合」（ギルド）に加入、親方資格を取得（親方試験への合格、市民権、婚姻、資金）
- 工房を開設：１階（工房件店舗）、２階以上（居住スペース、徒弟や助手も住み込み）
- 親方：工房を統括、注文主との交渉、作品制作を主導、工房が制作した作品すべてに「署名」
- 助手：作品の副次的な部分、安価な工房作の制作担当（有給）
- 徒弟：基礎作業（絵具制作、画地造りなど）を補助、絵画術を学習（授業料の支払い義務あり）
- 親方の配偶者：工房運営の補助業務全般

卓越した名画家に対する社会の高評価

◘中世よりあり

●ジョット（1267年頃～1337年）

- フィレンツェの画家
- イタリア各地の富豪、王侯などより注文、作品制作のために招聘（パドヴァ、ローマ、ナポリ）

◆「アレーナ礼拝堂（スクロヴェーニ礼拝堂）」パドヴァ

- 1303年頃　エンリコ・スクロヴェーニ、私邸に隣接して礼拝堂を建立
- 礼拝堂装飾のためにジョット（およびその工房）をフィレンツェより招聘

卓越した名画家に対する社会の高評価

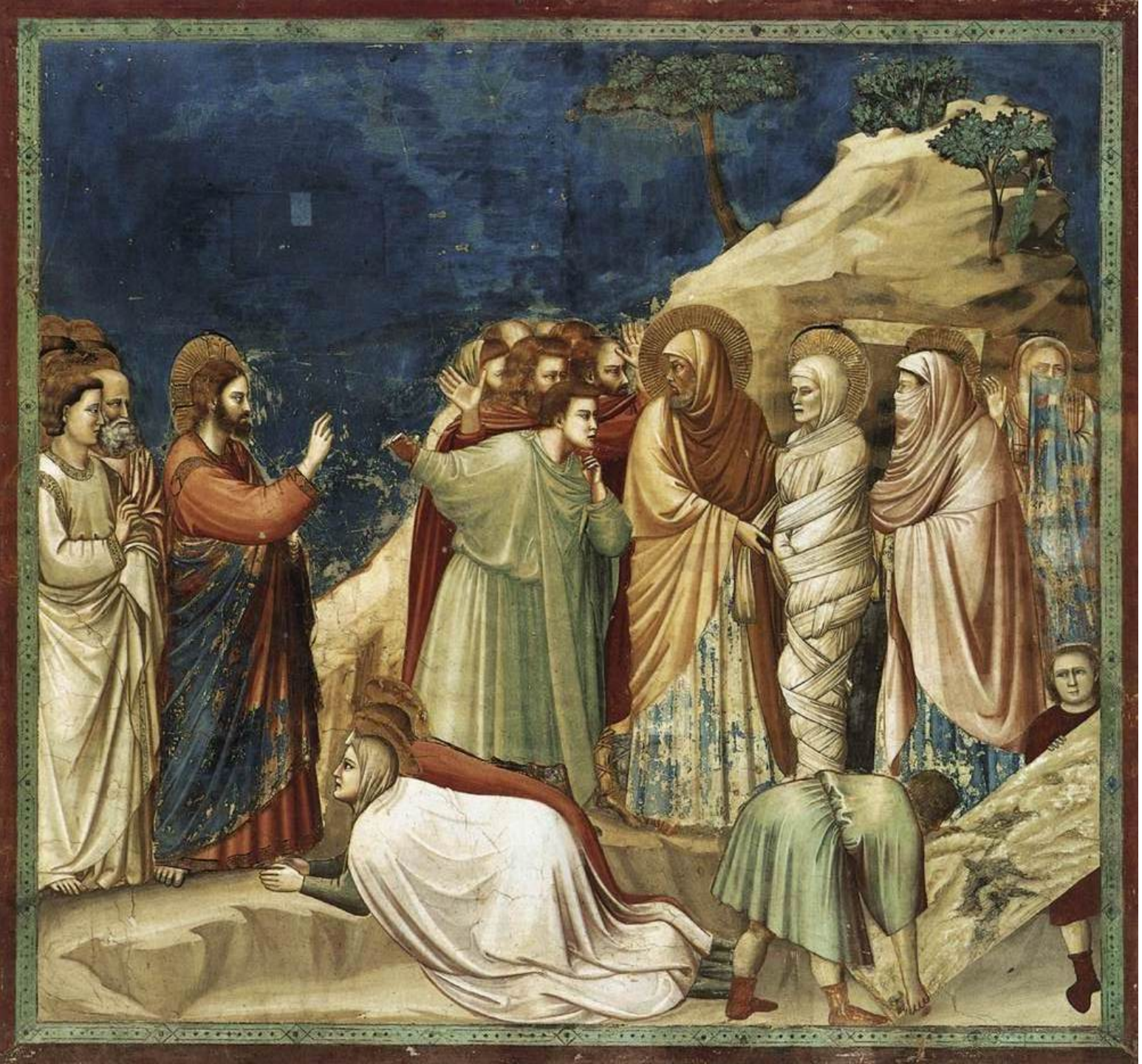
◆「アレーナ礼拝堂（スクロヴェーニ礼拝堂）」パドヴァ

- 1303年頃　エンリコ・スクロヴェーニ、私邸に隣接して礼拝堂を建立
- 礼拝堂装飾のためにジョットおよびその工房をフィレンツェより招聘
- ジョルナータ（Giornata)――日に制作したフレスコ画面
- 入口側の壁193日、天井88日、南側壁245日、北側壁250日、内陣壁門76日→延べ852日の実作業日
- 工房の弟子たちとの共同作業、休日、×零下
- 少なくとも延べ852日分の宿泊費（賄い付き？）を提供と推測

卓越した名画家に対する社会の高評価

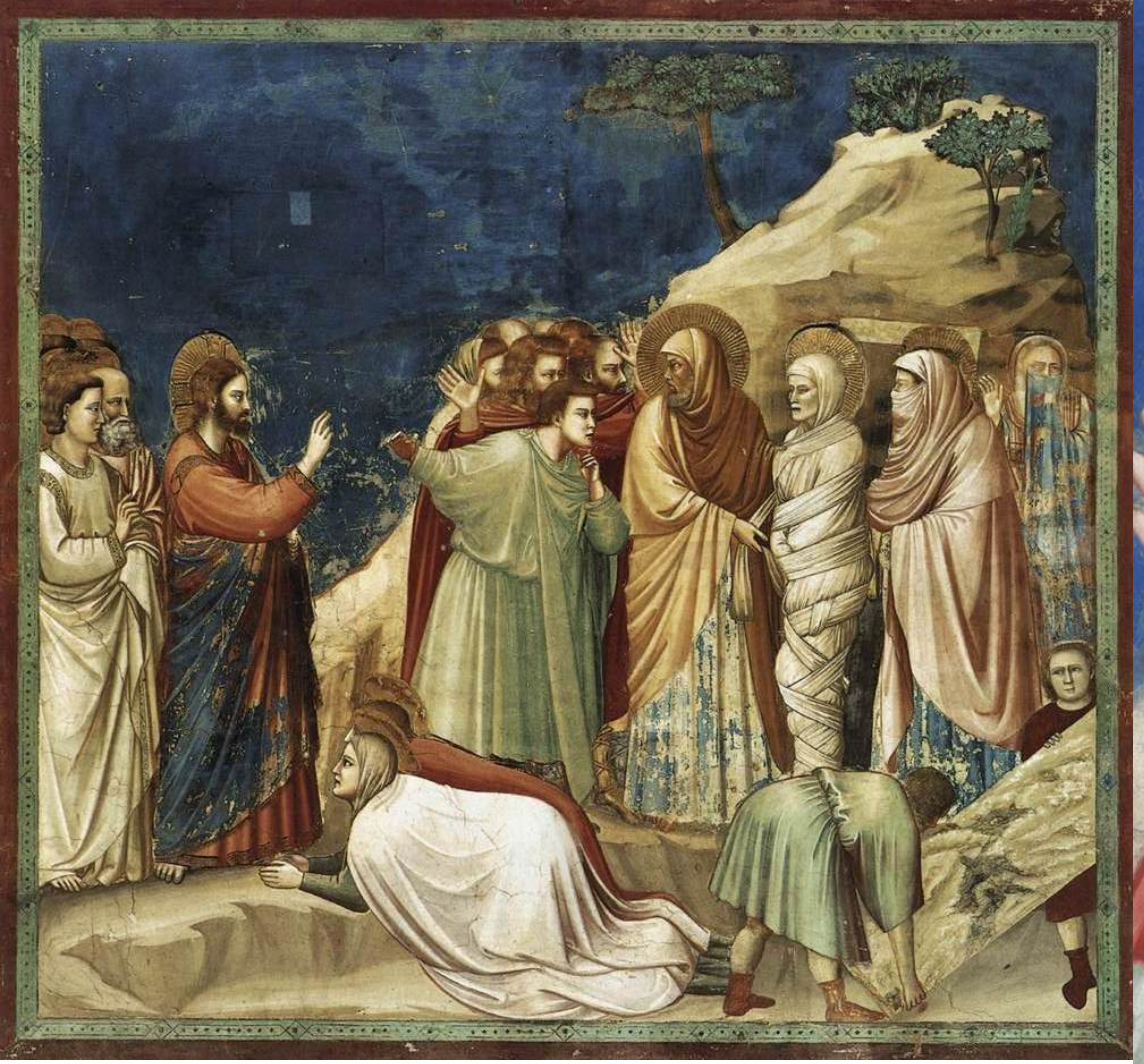
◆「アレーナ礼拝堂（スクロヴェーニ礼拝堂）」パドヴァ

- 1303年頃　エンリコ・スクロヴェーニ、私邸に隣接して礼拝堂を建立
- 礼拝堂装飾のためにジョットおよびその工房をフィレンツェより招聘
- ジョルナータ（Giornata)――日に制作したフレスコ画面
- 入口側の壁193日、天井88日、南側壁245日、北側壁250日、内陣壁門76日→延べ852日の実作業日
- 工房の弟子たちとの共同作業、休日、×零下
- 少なくとも延べ852日分の宿泊費（賄い付き？）を提供と推測



《ラザロの蘇生》

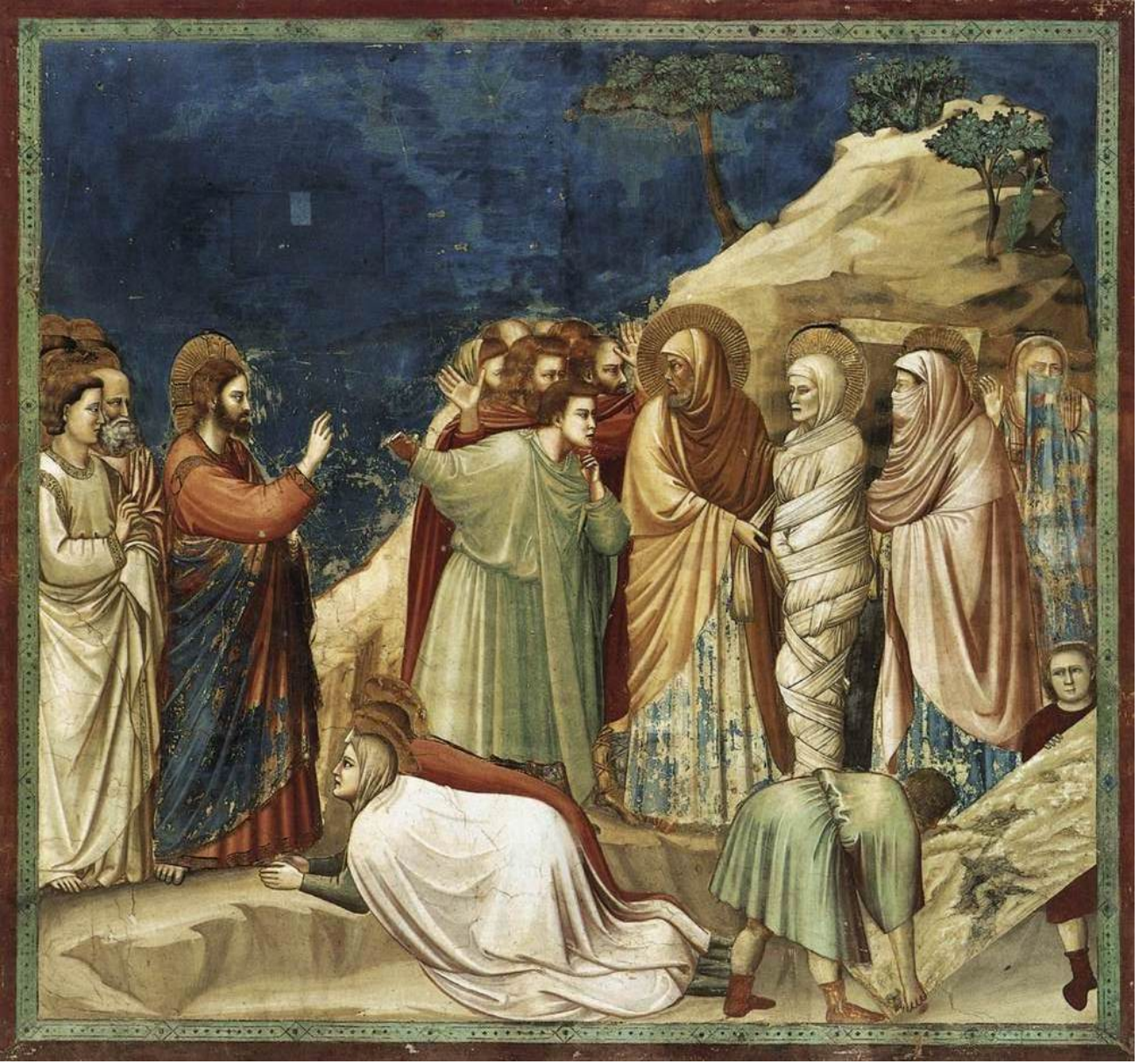
- ヨハネ福音書11：1－44
- ラザロ：マルタとマグダラのマリアの兄弟。4日前に洞穴に埋葬



卓越した名画家に対する社会の高評価

◆「アレーナ礼拝堂（スクロヴェーニ礼拝堂）」パドヴァ

- 1303年頃　エンリコ・スクロヴェーニ、私邸に隣接して礼拝堂を建立
- 礼拝堂装飾のためにジョットおよびその工房をフィレンツェより招聘
- ジョルナータ（Giornata)――日に制作したフレスコ画面
- 入口側の壁193日、天井88日、南側壁245日、北側壁250日、内陣壁門76日→延べ852日の実作業日
- 工房の弟子たちとの共同作業、休日、×零下
- 少なくとも延べ852日分の宿泊費（賄い付き？）を提供と推測



卓越した名画家に対する社会の高評価

◆「少なくとも延べ852日分の宿泊費（賄い付き？）を提供と推測―注文主のジョットに対する思い入れ

●ジョット

- スクロヴェーニより高く評価
- 飽くまで「名工」
- 画家としての技量
- 職人たちを取りまとめる親方としての技量

15世紀の新動向

- 「人文主義者」の登場：古代ギリシア・古代ローマの思想、書物、文化に精通した新しいタイプの教養人
- 古代ギリシア・ローマの「高貴なる画家たち」の再発見
  例）プリニウス『博物誌』（77年完成）の記述、アレクサンドロス大王の宮廷画家アペレスの逸話、など
- アルベルティ『絵画論』（フィレンツェ、1436年刊）
- 知的活動に裏付けられた絵画術＝自由学芸に準ずる
- 知的活動に裏付けられた絵画術に携わる画家＝単なる「職人」ではなく、高貴なる術を行使する「新しいタイプの画家」→「芸術家」という新しい社会的身分の誕生

「新しいタイプの画家」＝「芸術家」になるためには？

■ 自由技術／自由学芸（artes liberales/liberal arts）

- 自由で高貴なる人間に相応しい、知的活動に裏付けられた技
- 文法、修辞学、論理学、算術、幾何学、天文学、音楽

「新しいタイプの画家」＝「芸術家」になるためには？

■ 自由技術／自由学芸（artes liberales/liberal arts）

- 自由で高貴なる人間に相応しい、知的活動に裏付けられた技
- 文法、修辞学、論理学、算術、幾何学、天文学、音楽

1. 「物語画／Historia（history painting)」を描く

- 高貴なる物語に基づき、絵を描く
- キリスト教の物語、古代ギリシア・ローマ神話・英雄譚、寓意画など

⇒西洋の名画にややこしい絵（キリスト教絵画、神話画、寓意画）が多い理由！

●ミケランジェロ（1475年カプレーゼ？～1564年ローマ）

◆《アダムの創造》1512年頃、フレスコ、ヴァティカン宮殿、システィーナ礼拝堂

◆ボッティチェリ《ヴィーナス誕生》1480年代中頃、テンペラ、カンヴァス173×279cm、フィレンツェ、ウフィツィ美術館

●デューラー（1471年～1528年ニュルンベルク）

◆《メランコリア》1514年、エングレーヴィング、紙24×18cm

「新しいタイプの画家」＝「芸術家」になるためには？

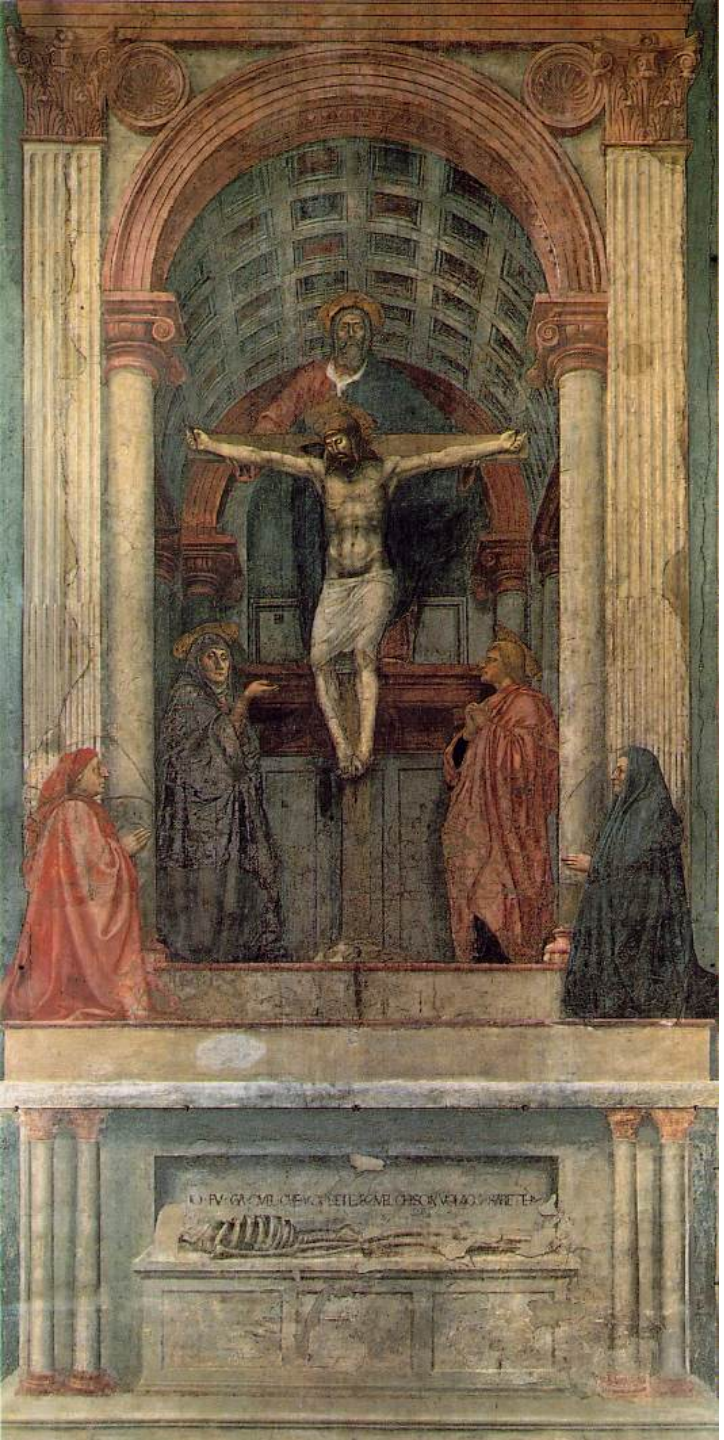
■ 自由技術／自由学芸（artes liberales/liberal arts）

- 自由で高貴なる人間に相応しい、知的活動に裏付けられた技
- 文法、修辞学、論理学、算術、幾何学、天文学、音楽

1. 「物語画／Historia（history painting)」を描く

- 高貴なる物語に基づき、絵を描く
- キリスト教の物語、古代ギリシア・ローマ神話・英雄譚、寓意画など

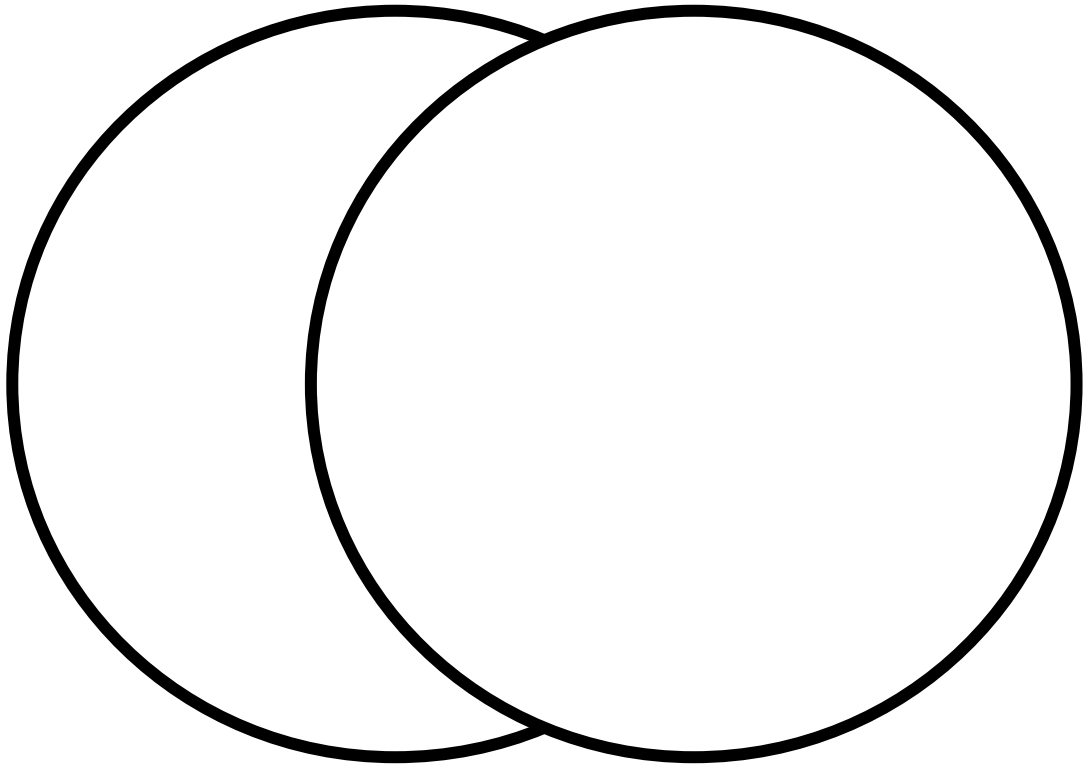
2. 「線遠近法」に基づいて絵画空間を構成する

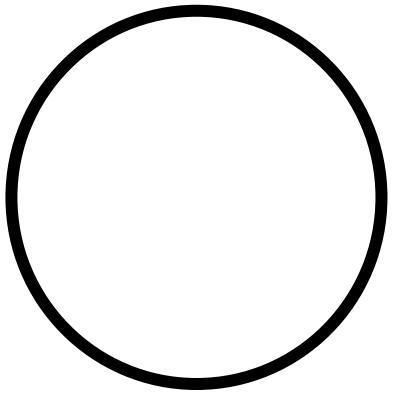


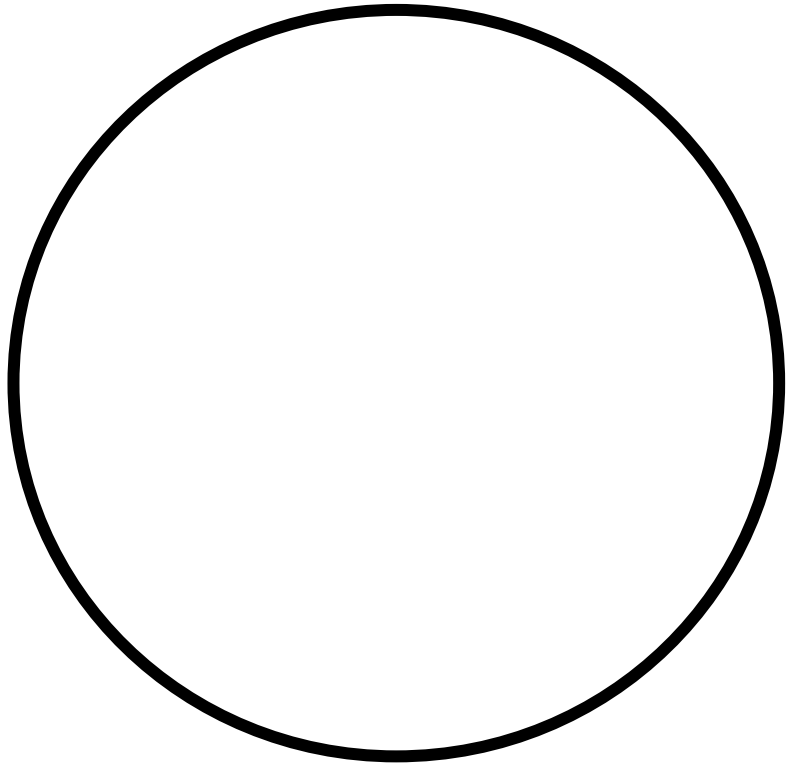
- 遠近法
  - 絵画平面に空間的奥行きを表現する方法＝鑑賞者に空間的奥行の存在を「錯覚」させる描写法

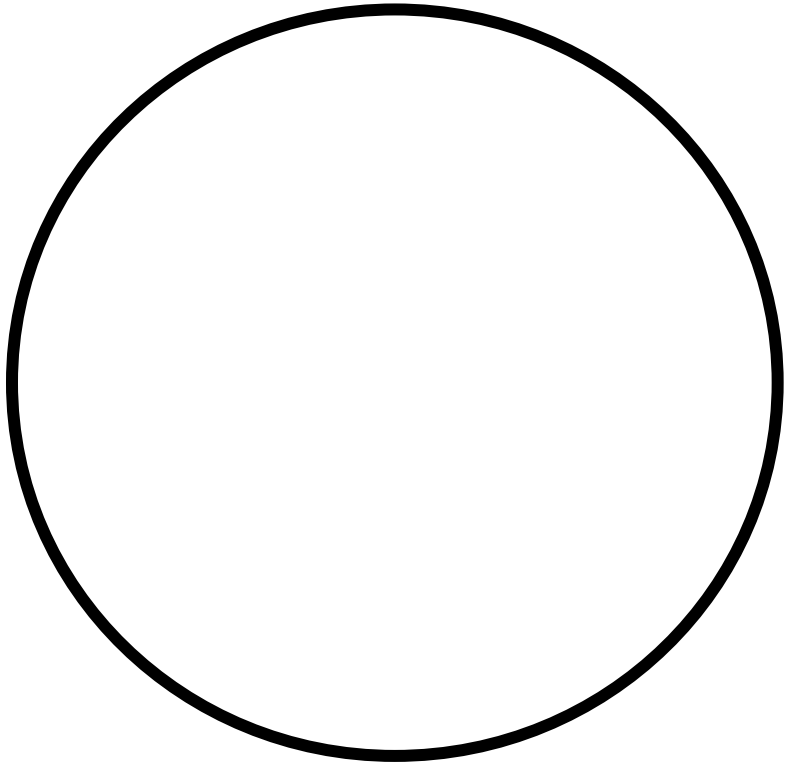
例）重なりの遠近法、大小の遠近法、上下の遠近法、空気遠近法etc.

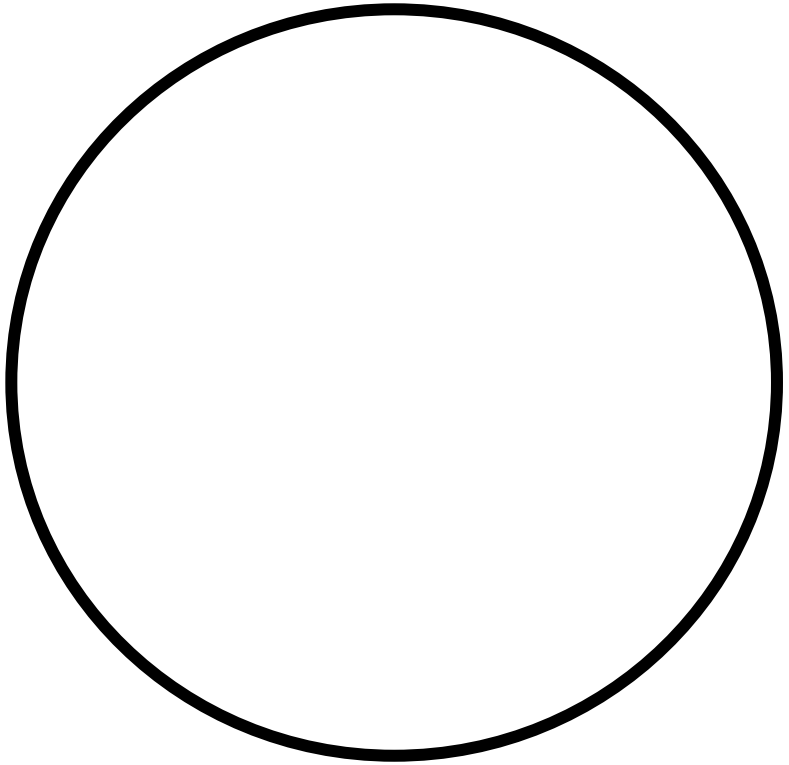
マザッチョ《聖三位一体》1427年頃、フィレンツェ、サンタ・マリア・ノヴェッラ教会

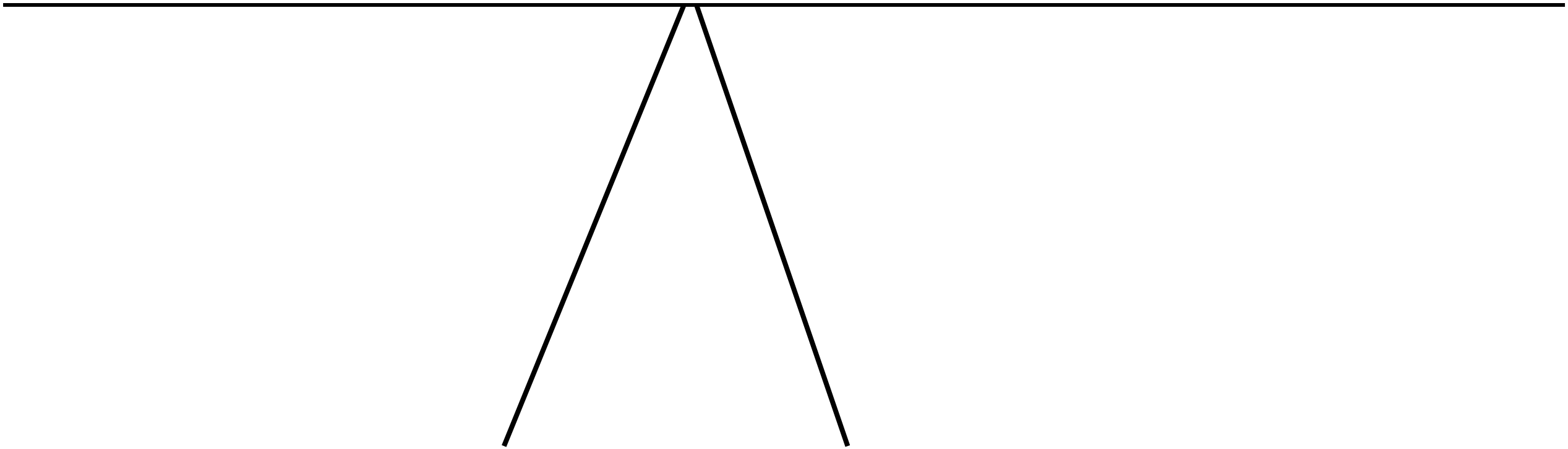


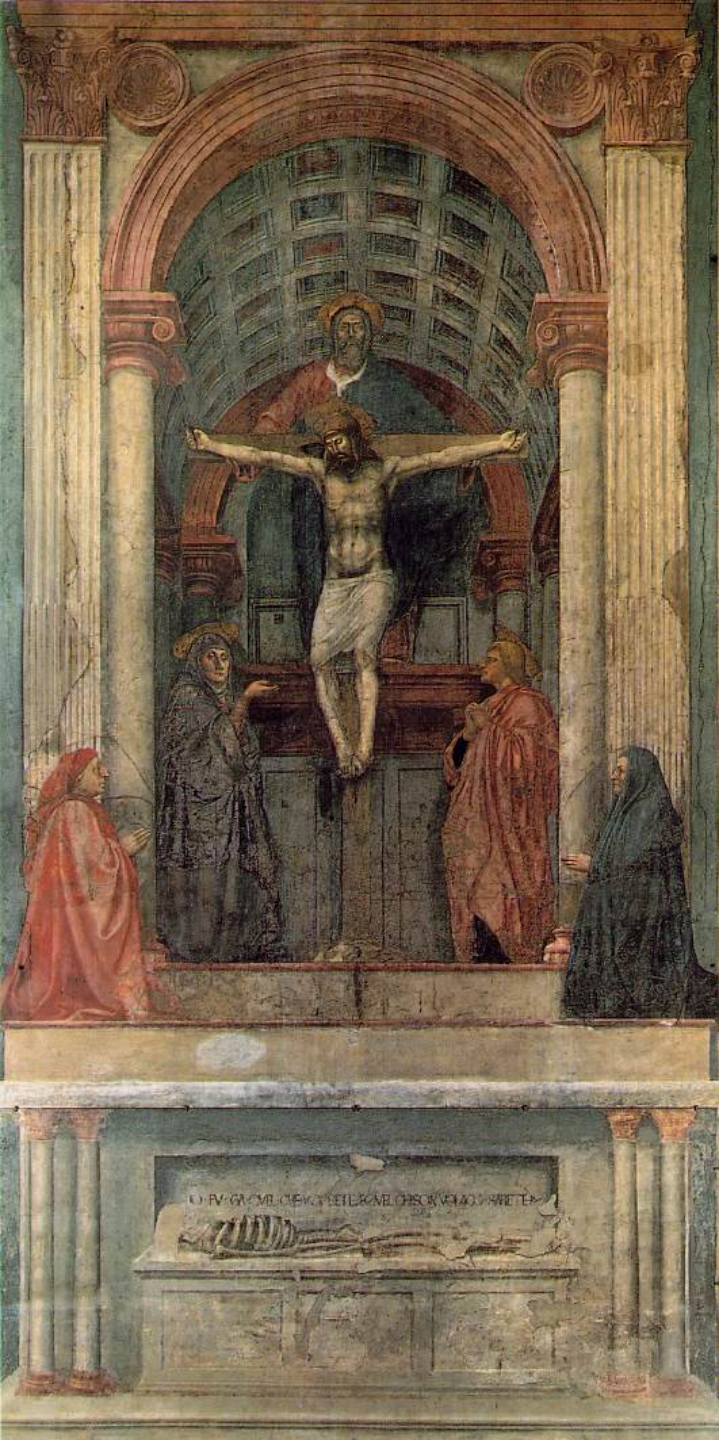












● 遠近法

- 絵画平面に空間的奥行きを表現する方法＝鑑賞者に空間的奥行の存在を「錯覚」させる描写法

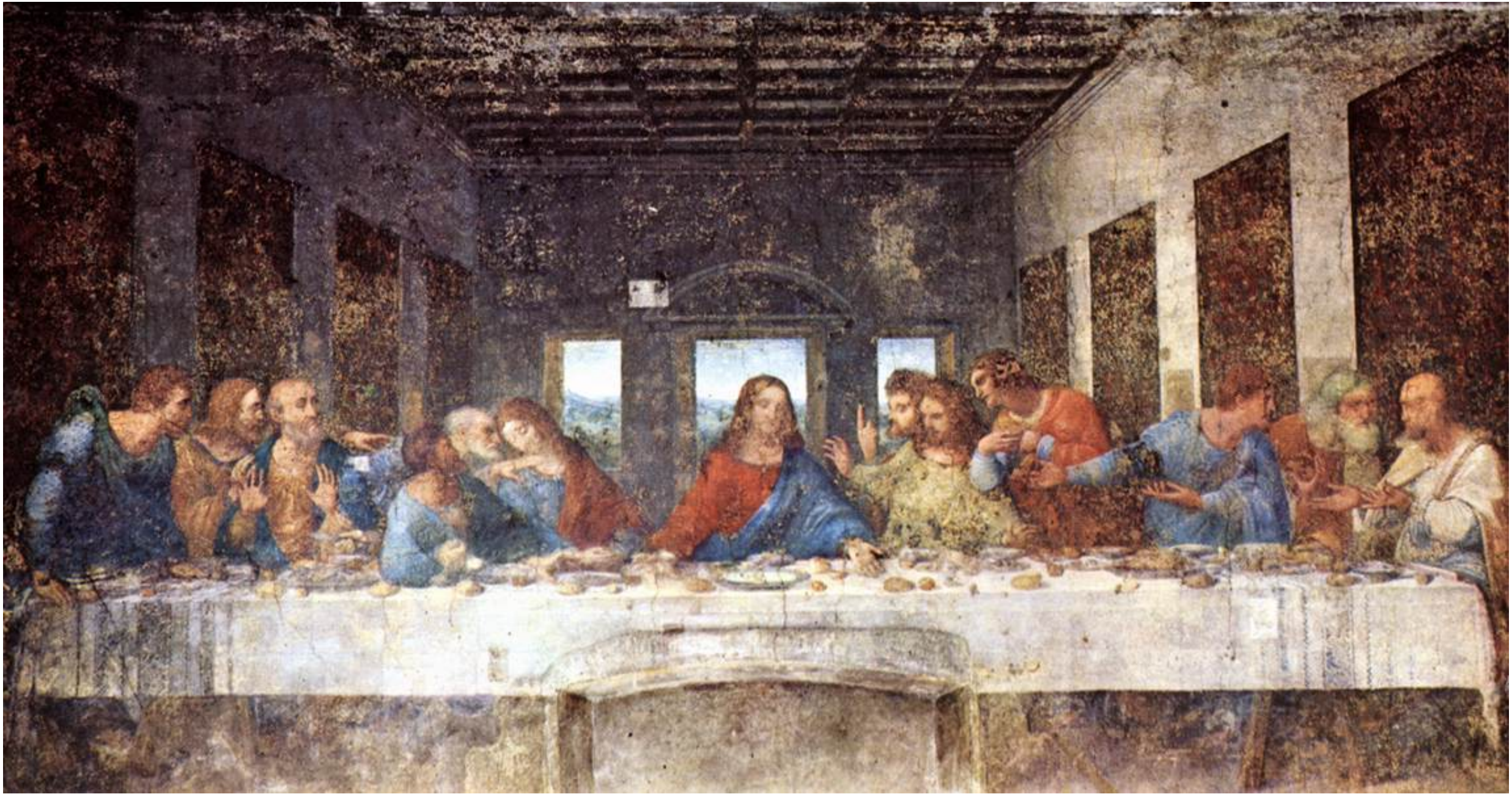
例）重なりの遠近法、大小の遠近法、上下の遠近法、空気遠近法etc.

● 線遠近法

- 線によって空間的奥行を「錯覚」させる方法
- 「どこまでも続く真っ直ぐで同じ幅の道」をみる→道幅は同じはずなのに、遠くにいくにつれて幅が狭まり、最後には1点に収斂するように「見える」
- 画中の直線モチーフを一点（消失点）に収斂するように描く→消失点に向かう空間的奥行感を説得力をもって合理的に表現可能／描写する建造物に合理的奥行感を付与
- 透視図法の研究：立体物、三次元的空間を作図する方法の探求（幾何学）、視覚の仕組みの解明（視覚生理学、光学）の研究課題

マザッチョ《聖三位一体》1427年頃、フィレンツェ、サンタ・マリア・ノヴェッラ教会

◆レオナルド・ダ・ヴィンチ《最後の晩餐》1498年、油彩壁画、460×880cm、ミラノ、サンタ・マリア・デッレ・グラーツィエ教会



◆レオナルド・ダ・ヴィンチ《最後の晩餐》1498年、油彩壁画、460×880cm、ミラノ、サンタ・マリア・デッレ・グラーツィエ教会

① 修道院の食堂にふさわしい主題選択（注文主の指定）

② 描かれる空間を考慮した完璧な透視図法（レオナルドの創意）→第二の現実空間の出現

「新しいタイプの画家」＝「芸術家」になるためには？

■ 自由技術／自由学芸（artes liberales/liberal arts）

- 自由で高貴なる人間に相応しい、知的活動に裏付けられた技
- 文法、修辞学、論理学、算術、幾何学、天文学、音楽

1. 「物語画／Historia（history painting)」を描く

- 高貴なる物語に基づき、絵を描く
- キリスト教の物語、古代ギリシア・ローマ神話・英雄譚、寓意画など

2. 「線遠近法」に基づいて絵画空間を構成する⇒線遠近法に対する熱すぎる熱意！

◆ウッチェッロ《サン・ロマーノの戦い》1450年代、ロンドン、ナショナル・ギャラリー

「新しいタイプの画家」＝「芸術家」になるためには？

1. 「物語画／Historia（history painting)」を描く

- 高貴なる物語に基づき、絵を描く
- キリスト教の物語、古代ギリシア・ローマ神話・英雄譚、寓意画など

2. 「線遠近法」に基づいて絵画空間を構成する⇒線遠近法に対する熱すぎる熱意！
3. 絵画理論書を執筆する！　例）レオナルド・ダ・ヴィンチ『絵画論（草稿）』、アルブレヒト・デューラー『絵画論（未完）』
4. 自画像でアピール！

◆デューラー《自画像》1498年、プラド美術館蔵

◆デューラー《自画像》1498年、プラド美術館蔵

- 白革の手袋⇒手仕事に携わる職人であることの否定
- イタリア風の装束

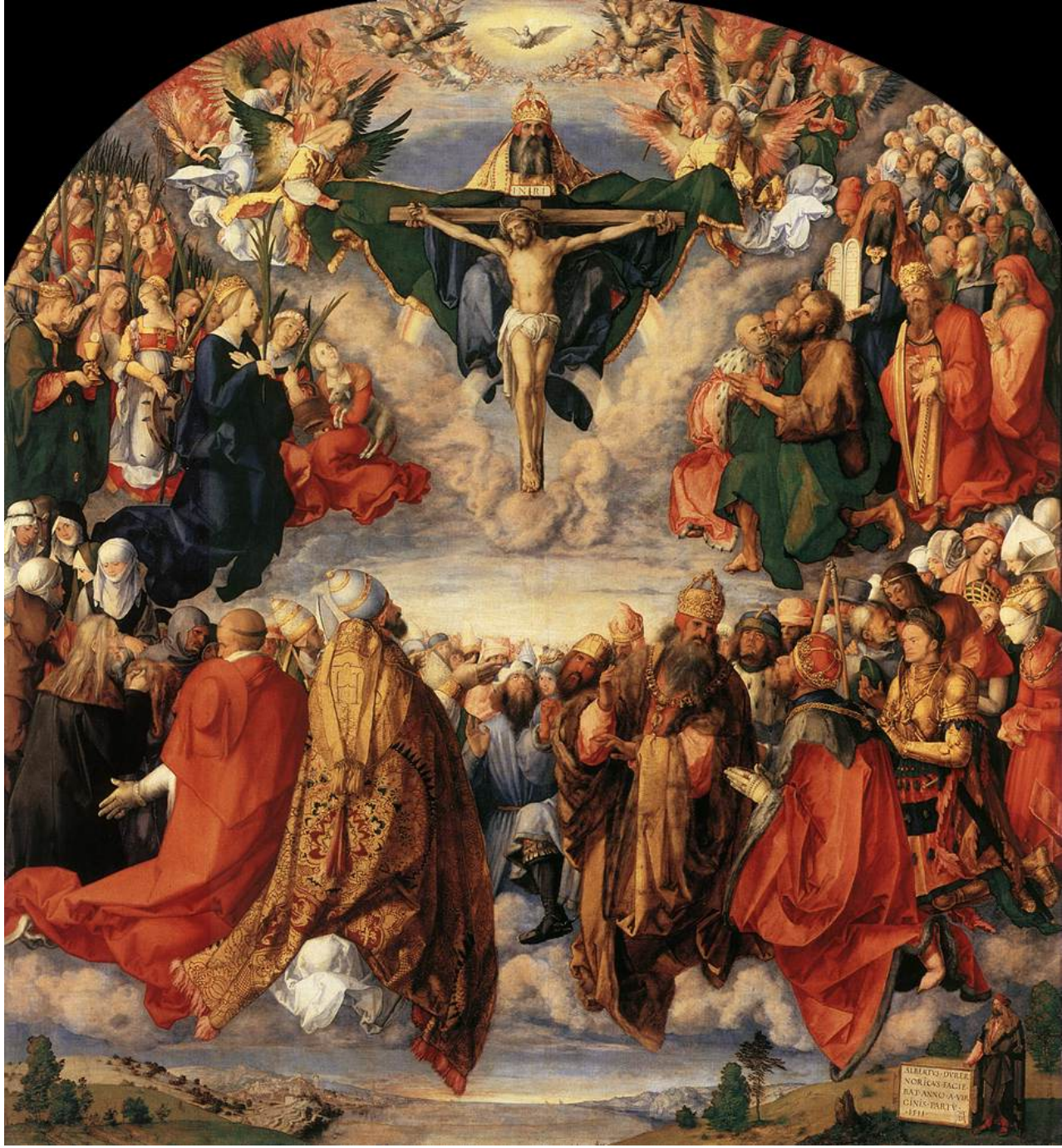
⇒「芸術家」という新しい社会的身分を社会に要求！

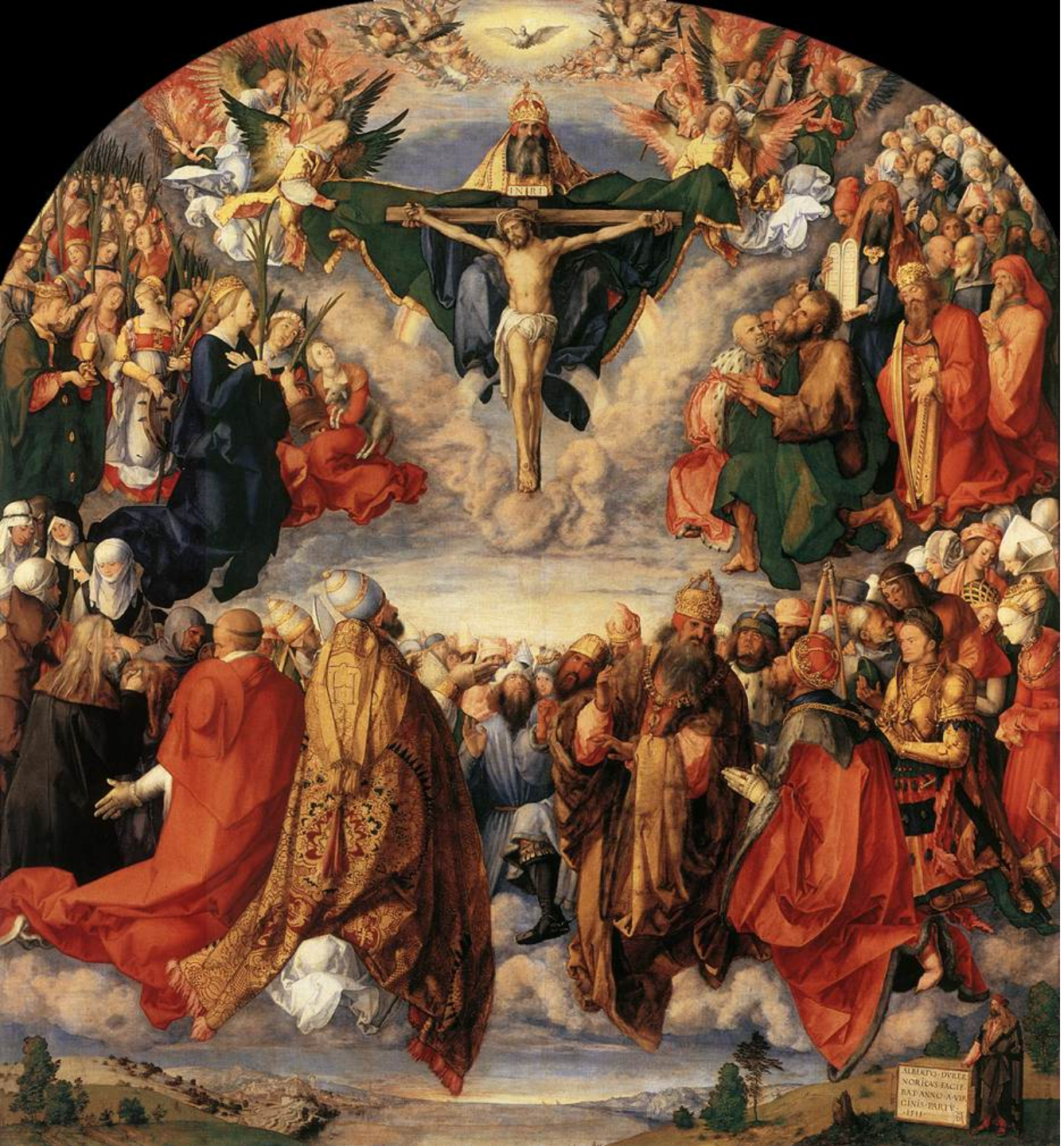
「芸術家」と自称するものの・・・

- ■ 工房制度・同業者組合制度は変わらず
- ■ 絵画：高額な制作費（顔料）
- ■ 注文制作：注文主の意向に左右
- 主題決定：注文主
- 図像決定：注文主周辺のブレーン（聖職者、学者など）関与
- 造形的創意：画家の裁量
- 契約書・前払い金⇒モデッロ（雛型素描）の提示⇒実制作⇒納期までに納品⇒アフターケア（ニス塗りなど）

◆デューラー《ランダウアー祭壇画》１５１１年、油彩、菩提樹材、１３５×１２３ｃｍ、ウィーン、美術史美術館

◆デューラー《同　雛形素描》１５０８年、ペン、水彩、紙３９×２６ｃｍ、シャンティイ、コンデ美術館


INRI
ALBERTVS · DVRER
NORICVS · FACIE
BAT · ANNO · A · VIR
GINIS · PARTV
1511



《ランダウアー祭壇画》

注文主と注文の経緯

- 注文主：マテウス・ランダウアー
  （ニュルンベルクの豪商、鉱業）

1501年「十二兄弟院Zwölfbruderhaus」の建設許可取得

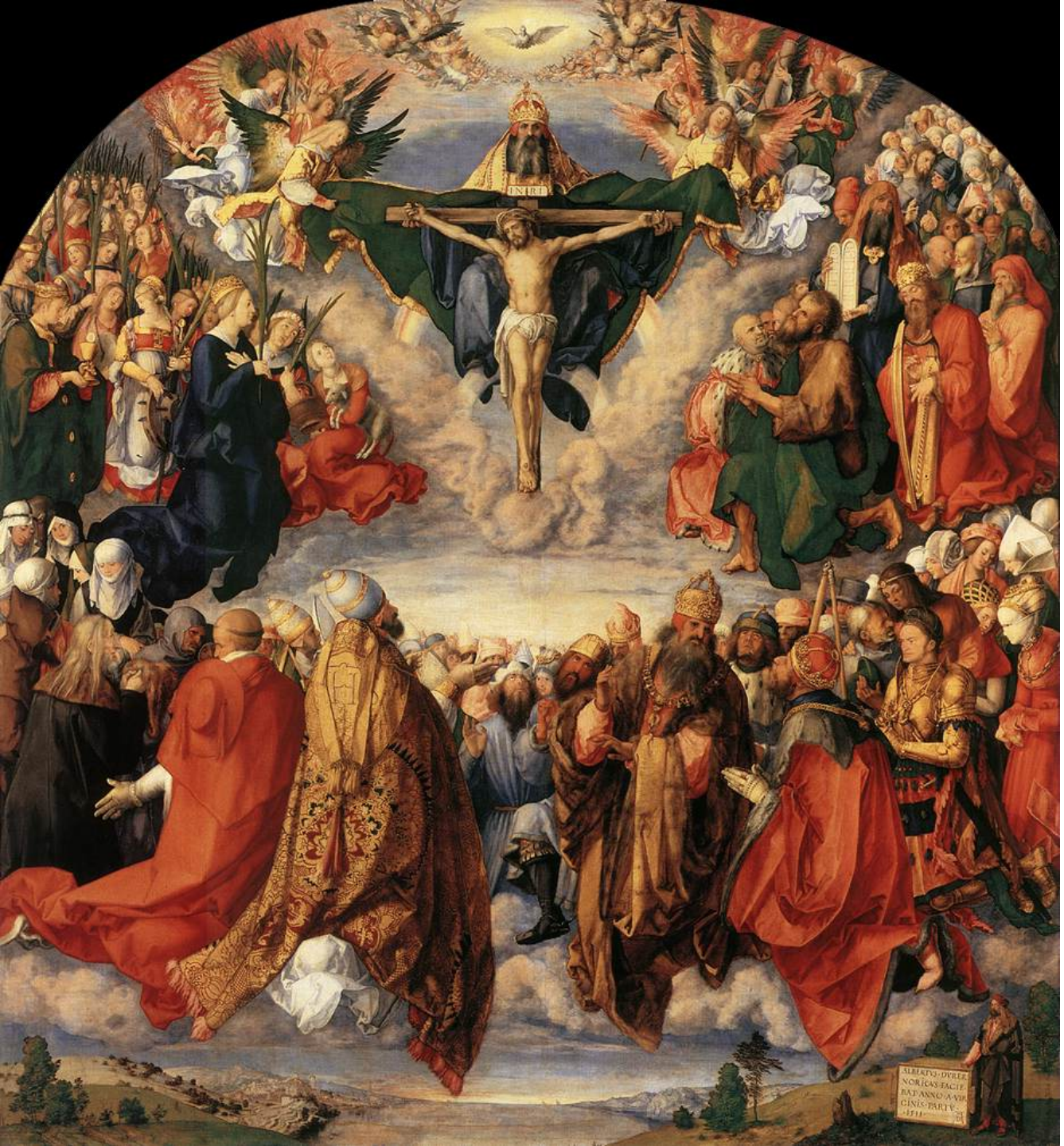
1507年頃　建物完成（「聖三位一体と諸聖人に捧げられた」付属礼拝堂）

1510年　ランダウアー自身も入居

1512年　財産を十二兄弟院に寄付する文書

1515年　死去、礼拝堂に埋葬

- 十二兄弟院付属礼拝堂の祭壇画としてデューラーに注文（契約書は現存せず）
- モデッロ（雛形素描）の存在



■図像

- 聖三位一体：一つの本質である神―三つの位格（父なる神、聖霊、子であるイエス）、天使たち
- 諸聖人、旧約聖書の義人、様々な社会層に属する良きキリスト教徒たち

■典拠：アウグスティヌス『神の国』22章（E.パノフスキー）

- 最後の審判の後に顕現
- 正しき地上の住人＋天使、聖人、預言者たち
- 聖三位一体の前で安息と歓びを得る

■献堂：聖三位一体と諸聖人⇒相応しい主題と図像

■精緻に描かれた人物群による完成された構図＋良質な顔料：注文主の許可

■高度な造形的特質

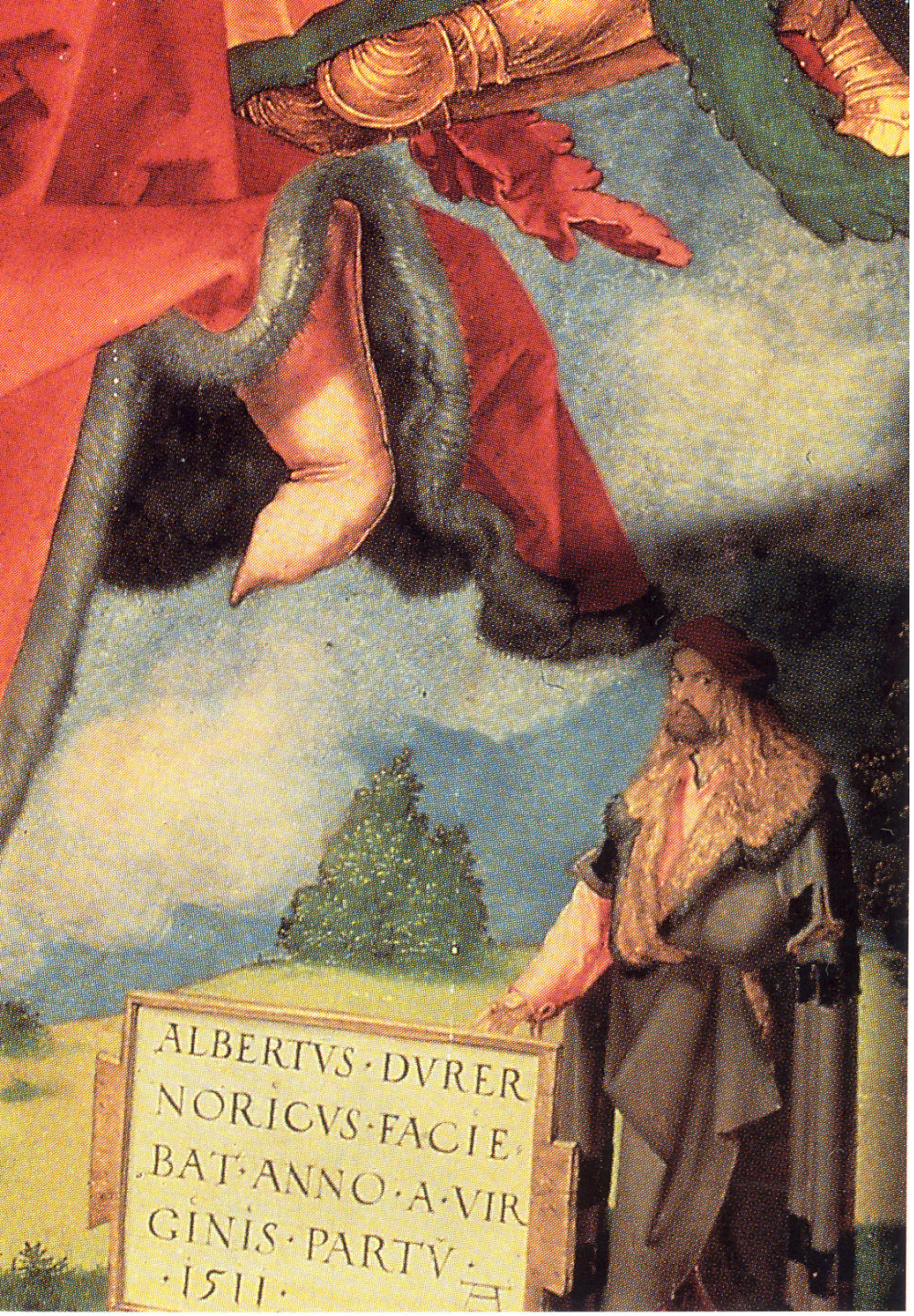
デューラー

《マテウス・ランダウアー》

1511年

黒チョーク、紙、27.2×18.9㎝、

フランクフルト、シュテーデル美術館



自画像つき署名・年記

- ALBERTVS DVRER NORICVS FACIEBAT ANNO A VIRGINIS PARTV 1511「ノリクム人アルブレヒト・デューラーが聖処女のご出産の1511年後に制作していた」
- 制作者としての自負心

☆プレデッラ

- ランダウアー家の紋章
- 「マテウス・ランダウアーはキリスト生誕後の1511年、寄進およびこの板絵とともについに十二兄弟院を完成させた」*Matheus landauer hat entlich volbracht das gottes haus der tzwelf bruder samt der stiftung vnd dieser thafell noch xps gepurd m cccc x I jor*

※キリストのモノグラム：xp (xps) 、IHS

注文主マテウス・ランダウアー：ラインダウアー家の私的事情（J. Ahlborn, *Die Familie Landauer*, Nuremberg, 1969.）

- もとは画家一族→金銀細工→金属製品・原材料に関する交易に進出

Cf)1396年　画家ベルトルト・ランダウアー　ニュルンベルクの市民権獲得。

- マテウス：ランダウアー家最後の当主（男子後継者に恵まれず、以後、家系は断絶）
- 一族に縁深い絵画術に対する強い思い入れ

- デューラー：生涯の代表作、額縁、ステンドグラスまでデザイン

- 作品：注文主、（ブレーン）、画家の間で誕生

15～16世紀のヨーロッパ
―「美術の黄金期」「巨匠たち」の時代

- 私たちが新しい「アート」のあり方を考えるヒントを与えてくれる時代
- 15～16世紀：近代的「芸術」概念・「芸術家」という「社会的身分」の形成期
- ルネサンスの巨匠たち：「アート」概念形成過程のアートの現場を生きる「作り手」たち
- 数々の名画：画家の才能、野心や葛藤、注文主の思い・・・

私たちの課題

- 新しい時代に相応しい「芸術」「芸術家」のあり方とは・・・？
- 新しい時代に相応しい「アートとビジネスの関係」とは・・・？

ご視聴ありがとうございました